

## 口腔内環境を把握しましょう



歯科 あしだ まさかず  
芦田昌和先生

倉敷平成病院の常勤医となつて5ヵ月が過ぎました。3年前から非常勤で週1回診療していましたので、足かけ3年半近く、こちらで歯科治療に従事していることとなります。この何年かで歯科治療のトレンドに大きく変化はないのですが、患者さんの歯科知識(デンタルIQ)が高くなってきているのを感じます。

私事ではありますが、去る平成24年7月17日に息子が産まれました。職業柄、つい口の中を見てしまうのですが、勿論のこと、新生児にまだ歯は生えていません。それどころか、虫歯菌

および歯周病菌も存在していません。乳歯が生え揃う2歳半頃までに感染しなければ、かなり将来的に虫歯や歯周病になりにくいことが分かっていますので、妻や両家の家族に口づけ、噛み与えや口移しなどしないように口を酸っぱくして言っています。ただ、歯磨きやフッ素塗布をしっかりとる代わりに、お菓子や甘い物は人並みに食べさせてあげようと思っています。美味しい物を食べるのは人生の大きな楽しみです。

ここでアメリカの歯科事情について、少し紹介します。まず、アメリカのお菓子という量の多さ、原色のけばけばしさと大量の砂糖が入っているイメージかと思えます。間違っていないです。その通りです。人工甘味料は勿論使用されていますが、日本よりキシリトールのような虫歯にならないと言われているものは使用頻度が低いようです。しかしながら、虫歯の罹患率は日本より低いのです。不公平な感じがしますが、何故かと言いますと、アメリカの水道水には日本では考えられないくらいの

濃度のフッ素を添加してあるからです。日本ではごく低確率で歯に色が付くという副作用の方が重視されるため水道水へのフッ素添加はごく微量しかできません。また、こちらは良い任意保険に入っていないと、十分な歯科治療が受けられず、普通に歯を抜くのに10万円くらいかかってしまいます。口腔内の健康を保っておかないと、かなりのお金がかかることを皆知っていますので、いわゆる低所得者層でも自身の意思で年に数回は歯科検診に行き、自分の口腔内環境を把握しているのです。

歯科は怖い、痛いイメージが強く、足が遠のいている方も現在の自分の口の中がどうなっているのかということを知り、健康であるためにも一度、歯科受診をお勧めします。

まだまだ至らないところもあるとは思いますが、歯科治療を通じて、皆さんの健康の一助ができればと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

芦田先生は毎週火～土曜の歯科外来を担当されています。

Doctor's Eyes